

# 美という名のエネルギー

vol.9

栗原直弘

(古美術商)

## 第三章 「美」の意味と価値 ②

### 四種類の意味

この第三章でお話しする「美」の蒐集における四種類の意味と価値とは、1 「美術品としての価値」、2 「芸術作品としての価値」、3 「学術的な価値」、そして4 「蒐集家にとっての価値」を示します。

また「学術的な価値」とは、ある意味では「美」や「芸術」とは限らず、考古学や歴史、また、それらの蒐集は学術や研究のためのもので、学者や研究者にとって価値のある「美」を言います。

目的として取り上げられた物で、それは絵画や陶芸などさまざまな「美」があるでしょう。

そして、「蒐集家にとっての価値」とは、「ジュークボックス」から「消しゴム」まで、それらの蒐集家にとっては、たまらない魅

力と価値のある「美」を言います。

これらはジャンルの違いではあります  
が、さまざま 「美」 のエネルギーを宿し、  
蒐集家達それぞれの「美」 の波長と共に鳴し  
た結果でしょう。

### 「美」とは「智」である

私達はまるで一枚のカードを引くように  
一つのジャンルに陶酔することがありま  
す。このことは、正にそのジャンルと波長  
があつたということなのですが、見方を変  
えれば、私達自身がそのジャンルと波長の  
合う状態にあつたということでもあるで  
しょう。

一口に「波長が合った」とは言うものの、  
ではそれらのジャンルがどのように成さ  
れ、どのような意味をもって流通している  
かを理解されている方は少ないよう感じ  
じます。

いるものは、前項でいう四種類のどれに当  
てはまるのかを是非一度お考へいただきた  
いと希望しています。

さらに、お好みのジャンルとの出会いは  
なんであつたのか、何故、そのジャンルを  
選び、またお手元の美術品や古美術を選ば  
れたのか、是非一度自らと向き合つていた  
だきたいと希望しているのです。私はかね  
てより皆様に「美」とは「智」であるとお  
話しさせてきました。すべからく「美」とは、  
過去から現在までを生きた人々の意識や技  
術、知性や想念であり、そのようなエネルギー  
が物質化したものだと考えるのです。

「美」を認識するのは人間の知性であるこ  
とは間違ひのない事実でしょう。そして、  
それらを本当の意味で理解するためには、  
それらのジャンルや年代を知ることではな

く、まして金銭的な価値を知ることではなく、それらの在り方を理解する知識を持ち、それらのエネルギーの波長に同調するなど考へるのであります。

### すべてはエネルギー

大前提として、人の価値観はさまざまであり、ジャンルによる価値の高い低いはありません。たとえ仏教美術のジャンルに入らうが、「美」のエネルギーを宿さない物もあれば、それがマンガのキャラクター消しゴムであろうとも、とてつもない「美」の波長を宿すものもあるのです。

私は、「タバコのおまけ」のライターに「とてもない美」を感じることがあります。そのような「美」は、そのライターの制作に関わった人々すべてのエネルギーが物質化した「美」であり、その形や色、機能な

どど私の波長があつたということでもあります。

物事の価値観は相対的な判断によるもので、すべて知識や経験、意識や立場によるものであり、物事の良し悪しは、人間の都合の良し悪しでしかありませんが、そのようないいライターをただの「おまけ」という既成概念で見るか、その「美」を認識するかによつて違つ世界が広がるのです。

しかしながら、現在の美術品や古美術の流通を見るにつけ、私達はさまざま情報にまどわされ、ジャンルに囚われて、闇雲に購入、蒐集しているのではないでしようか。金銭的な価値を判断の基準にすることなく、今一度、「美」の本質を探り、蒐集する意味とそれらの価値を考えてみる必要があるのではないでしようか。